

集り、こゑをあげて泣悲しみけるさま、釋迦佛の入滅もおもひ去られけると見し人語りき、

〔近世畸人傳四〕室町宗甫

宗甫は京師室町四條街に何がしといへる豪商なりしが、男子二人俱に無頼なるがゆゑに勘當す、然りし後、世中うるせくおぼえて、他の子を嗣として家をゆづるとも、此二人のわるもの來りまつはらば、心よからじとて、其家をはじめある所の調度ども皆賣たてしに、貳萬金になりぬ、おのれはかごかなる所にこもりて世の交もせず、彼金はまどしき、人に施す料とす、さればかうかうなる人、いと悲しきさまなるを、錢すこしあたへ給へなどいふ人あれば、いなわれもまどしと口にはいひて、ひそかに金五兩つ、みて其家に投入、あるじ此人ならんと推して謝に來れば、いなわれにはあらずといふ、不意に人に與ふる金は、必五片に定む、もし又貧にして家を賣人ありと聞ば、價高く買損たる所をつくりひて、うつり住かと思れば、やがて價賤賣はなつ、常に陰徳を行ふこと此類にて、二萬金殘なくなりぬ、

公益

〔續日本紀文一〕四年三月己未、道照和尚物化、○中於後周遊天下、路傍穿井、諸津濟處儲船造橋、乃山背國宇治橋、和尚之所創造者也、

〔續日本紀聖十七〕天平勝寶元年二月丁酉、大僧正行基和尚遷化、和尚藥師寺僧、俗姓高志氏、○中又親卒弟子等、於諸要害處造橋築陂、聞見所及、咸來加功、不日而成、百姓至今蒙其利焉、

〔續日本紀桓武〕延曆三年十月戊子、越後國言、蒲原郡人三宅連笠雄麻呂、蓄稻十萬束積而能施、寒者與衣、飢者與食、兼以修造道橋、濟利艱險、積行經年、誠令舉用、授從八位上、

〔續日本後紀仁十〕承和八年三月癸酉、京人孝子衣縫造金繼女、居河內國志紀郡、○中至冬節則母子買雜材、惠賀河構借橋、總十五ヶ年、○中勅叙三階、終身免戶內租、旌表門閭、令衆庶知、

〔元亨釋書十四〕釋最仙嘗任常州講師、戒行備足、四衆歸崇、性抱利濟、修寺院、掃堂宇、夷嶮途、架絕梁、走